

2019年度希望創発研究会の最終報告会（オンライン）を実施

ホーム > 希望創発研究会 > 例会実施報告

希望創発研究会

教育研究システム

研究テーマ

研究会スケジュール

例会実施報告

参画メンバー

参画メンバー募集について

2019年度希望創発研究会の最終報告会（オンライン）を実施

公開日 2020年10月2日



2019年度希望創発研究会の最終報告会を、研究テーマ毎に以下の日程で実施しました。

2020年8月29日（土） Aテーマ

2020年9月5日（土） Bテーマ

2020年9月6日（日） Cテーマ

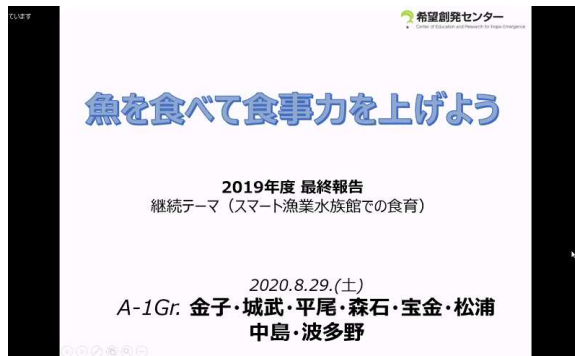
2020年3月開催予定でしたが、コロナ禍の影響により開催延期となっていました。今回、関係者の皆様のご協力のもと、オンラインで開催することができました。

トップバッターはAテーマ「持続型・安全・安定食糧生産システムの開発と高知からの発信」の研究に取り組んできた3チームの報告です。

高知の「食」に焦点をあて、食育・獣害問題に関する議論を重ねてきました。

チーム名	タイトル
A1チーム	魚を食べて食事を上げよう
A2チーム	食の価値を今一度見直したいし申候
A3チーム	獣害から見える中山間地域の課題

加えて、2018年度希望創発研究会A1チームが取り組んだ移動水族館構想の実践プロジェクトとして、2019年11月に実施した「ポップアップ水族館」の報告がありました。

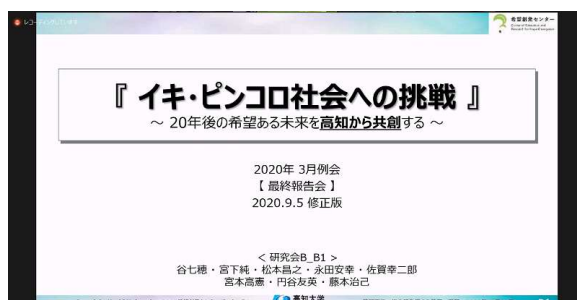


続いてBテーマ「医療・介護分野での課題解決」の研究に取り組んできた3チームの報告です。

医療・介護にとどまらず、「生きるとは」「死ぬとは」という観点から議論を重ね、解決したい課題の検

討を重ねてきました。

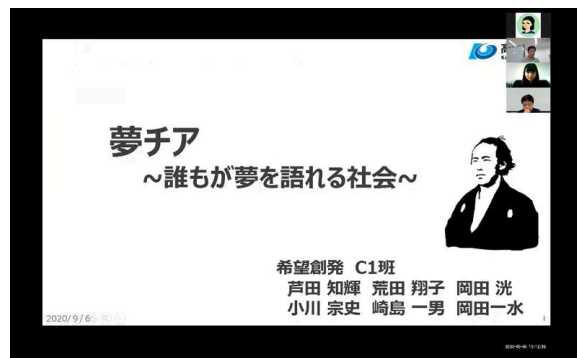
チーム名	タイトル
B 1 チーム	イキ・ピンコロ社会への挑戦 ～20年後の希望ある未来を高知から共創する～
B 2 チーム	健幸（けんこう）へのPASSPORT ～未来の希望（子ども）に種を～
B 8 チーム	ビジネスモデルで高齢者のリア充を実現できるのか



最後はCテーマ「“明日の日本の姿”を創る」の研究に取り組んできた3チームの報告です。

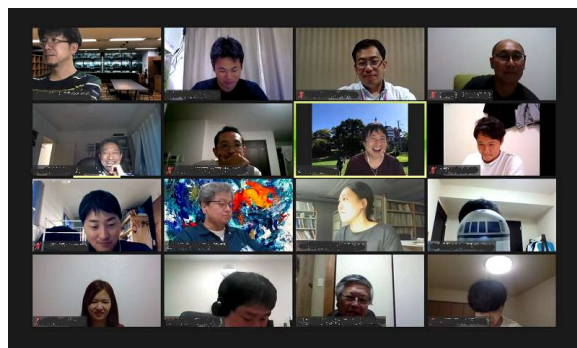
壮大なテーマに対し、果敢に挑戦されました。プログラム当初、3チーム合同で高知県中山間地域を訪問し、住民からのヒアリングで様々な気づきを得たことが、チーム議論に反映されました。

チーム名	タイトル
C 1 チーム	夢チア ～誰もが夢を語る社会～
C 2 チーム	ここが私のANOTHER SKY ～in 高知～
C 3 チーム	YO・SA・KO・Inclusion ～多様な「よさ」を「こ」うちで「い」かそう～



各日程とも、発表後に以下のプログラムを実施し、発表内容への質疑応答、チーム別の振り返り等を行いました。

- ・グループに分かれて質疑応答
- ・1年間を振り返って（参加者発表）
- ・コメンテーター3名から各チームへのエール
- ・チーム別振り返り



全てのチームの最終報告終了後、1年間の活動を総括として「センターの目指すべき人材像とアプローチ11項目」の自己レビューを行い、チーム共有および全体発表を行いました。

センターの目指すべき人材像のアプローチ

1. 「なぜ？」と考えることが習慣化したか？
2. 「新しいものごと」ではなく、「普遍的なものごと」に目を向けることが出来たか？
3. 他者との関わりによって、自分の特徴や強みに気づけたか？
4. まずは「役に立つか？立たないか？」の物差しではなく、自分自身の物差しでものを捉えることが出来たか？
5. 近視眼的な目的指向に走るのではなく、自由に思考・行動が出来るようになったか？
6. 研究会活動をおして「感覚」や「感情」は揺れ動いたか？
7. 社会に対して、あるいは自分自身に対して、これまでに感じたことがない違和感をもつようになったか？また、その違和感の正体にアプローチできたか？
8. 世界に対する捉え方が以前と変わったと感じられるか？
9. みんなでやるからこそ、塗り替える場所があることを実感できたか？
10. 日常を足場として、希望ある未来の創成の一翼を担ってやろうという気持ちが高まって来ましたか？
11. 自分のフィールドに戻って、これまでと違った目線で物事を見たり感じたりするようになったか？

2020年9月6日(日) 希望創発センター

A 1 チーム

良かった点

- ・物事に対して1度立ち止まって振り返ることを意識、経験できてよかった。
- ・学生、企業人まざったことで企業人として固まっていた尺度、目線が変わった。
- ・専門的知識を持つ学生と社会人としての経験を積んだ企業人とのバランスが斬新なアイデアが生まれるチームとしてまとまれたと感じた。
- ・グソクムシを食べるという経験、話し合ったことでいい関係を築けたのではありませんか。

今後の課題

- ・普遍的なものごとを目にすることが出来たかという点は現段階でも難しい
- ・自分の物差しとは何か ⇒ 自分の中の軸をこれから作っていくべき。

A 2 チーム

・研究に関して「なぜ」を考えることはあったが、身の回りのことや普遍的なことについて考えることは無かった。話し合い視点を持つことができ、真因を捉えるよう意識することができたと思う。

・ディスカッションを進め、社会人の視点や考え方の違いを学ぶことができ、自身が成長できたと感じる。

A 3 チーム

・様々な場所に赴き、新たな価値観を得られたし、自分たちのやりたいことを突き詰められた。

・学生の意見としては、社会に対して違和感を持って自分で対処するということは今後の課題とした。

B 1 チーム

【11 項目とそれぞれの変化・気づきについて】

十分達成できたことは何でしょうか？

① ○さん

- 研究会活動を通して「感覚」や「感情」は揺れ動いたか？という項目
- ・人の話を聞かないタイプ、でもどうして？というのが先行するタイプ
- ・自分の考えは悪いと思った、外の人と触れ合うことはなかった、引いて、引け目を感じていた
- ・仕事では井の中の蛙、社内のことは分かっている、知らないところで知らないところ
- で知らないことが多いとよく分かった。

(皆さんの意見)

- ・元からそういう気がないけど、自身ではそう感じたのかな。
- ・謙虚な気持ちで見ているところはいいところと思う。

② ○さん

- 普遍的な物事に目を向けることはできた。
- ・大切なものを仕事と違う世界で感じる事ができた。
- ・服、物好き、が、かわたし、けい、けい、の守るべきものがあることに気づいた。
- 守る難いよ、達成という意識した。

③ ○さん

- 「なぜ」を考える習慣が身についた
- ・普段も目的考えるようになったと実感
- ・日常生活でも目的を考える自分になる
- ・去年の反省を口に出す、から、行動に出すようになった

(皆さんの意見)

- ・○さんからみた○さん、違和感の正体に迫る行動が表れていた。
- ・『なぜなら自分はこの場からという意見・考えが出た』→チーム活動でも活躍できていた
- ぶつて、けんとう、と、自分なりに納得したという考えも出ていた。

B 2 チーム

・「なぜ」と立ち止まって考えることができるようになった。普段の業務での考え方・プロセスが企業風

土に染まっていたことに気付いた。

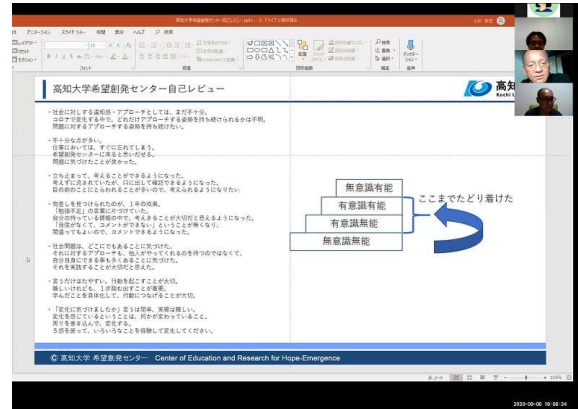
- ・様々な立場の参画者が集うことでの無限大の可能性に気付いた。

B 8チーム

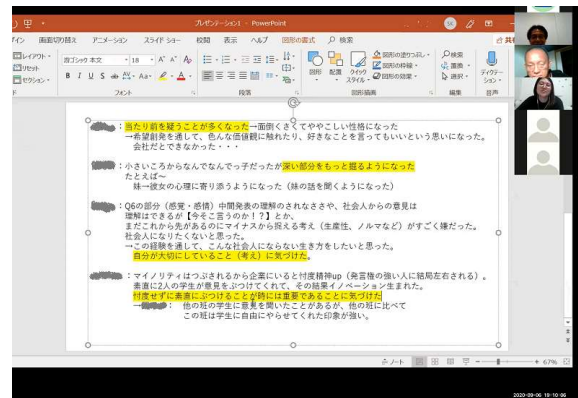
・継続テーマについてチーム内での葛藤があったが、そこを丁寧に解きほぐし、全員で合意形成しながら進めることができた点は良かった。

- ・自身の積極的な部分が研究会を通して解放されたとチームメンバーから言ってもらった。
- ・2年目参加の学生は、前年よりも主体的に関わることができた。

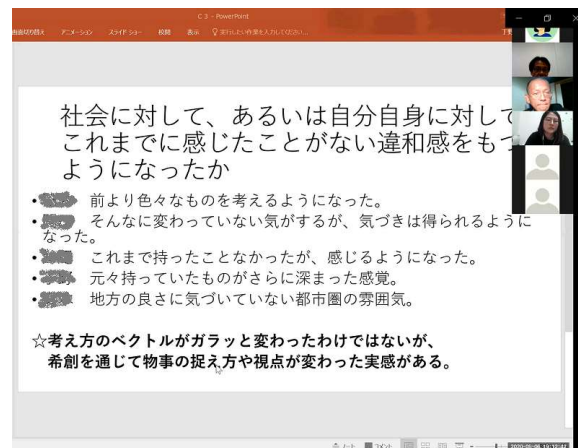
C 1チーム



C 2チーム



C 3チーム



参画者自主検討テーマ報告

チーム活動とは別に、有志チームのメンバーがコロナ禍で考え、また希望創発研究会の1年間の活動で感

じたことを発表されました。



最終報告会をもちまして2019年度希望創発研究会を終了いたします。関係者の皆様の多大なるご支援
とご協力を賜りましたこと、心から厚く御礼を申し上げます。

[トップページへ戻る▶](#)

希望創発センター

Center of Education and Research for Hope-Emergence

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1
国立大学法人 高知大学 学務課
学習・研究サポート係（希望創発センター）
TEL:088-844-8440

© 2019 高知大学希望創発センター